

リーダーになら!

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。

第37回

一対一で向き合う

1人の部下を「ただの1人」とあなどってはいけません。その後ろには、常に部門の全メンバーが控えていて、あなたの上司としての対応を見ています。

1人への対応 部署全体に影響

上司ともなれば、部下が1人だけというケースはまです。複数の部下を持つ

というケースのほうが一般的なはずです。中には、10人以上の部下を持つているという人もいるでしょう。たくさんの中の部下を持ついると、全員(あるいは複

「ただでさえ忙しいのに、一人一人の部下とじっくり向かい合おうなんて無理」というのは、たくさんの部下を持つ上司の本音かもしれません。しかし、この態度には大きな問題があります。

一対一で部下と向かい合っているとき、あなたは、目の前の部下のことだけを見ているのかもしれません。しかし、その部下の後ろには、あなたの部署全員がいるということを忘れないでください。もし、あなたが一

1人からの信頼 広がり好環境育む

こうなつてしまふと、朝礼など全員の前で立派なことを言つても、まるで説得力がなくなつてしまいま

人の部下に対して、いいかげんな態度をとつたとしたときには力を注ぐが、一対一の関係のときにはついつい力を抜いてしまつていて、そういう人も、たまに見掛けます。

「ただでさえ忙しいのに、ほんの部下にも話すものでなくわざわざしたくな」と、ほかの部下にも話すものでなくわざわざしたくな

す。すると、部署の全員に「部下の話を聞いてくれない上司」「適当な返事しか返さない上司」という認識を持たれかねません。

一対一で部下と向かい合っているとき、あなたは、目の前の部下のことだけを見ているのかもしれません。

しかし、その部下の後ろには、あなたの部署全員がいるということを忘れないでください。もし、あなたが一

す。一方、一対一のとき真剣に対応して、部下に信頼を得ることができれば、その部下は「意外に、真剣に話を聞いてくれたよ」、個人的に話せば、ちゃんと分かってくれる課長だよ」とみんなに話してくれるものであります。すると、ほかのメンバーからの信頼も得られ、相談や報告を受けやすい環境が出来上がっていくのです。

上司にとっては、たくさんいる部下の1人という感覚かもしれないが、決してあなどってはいけません。1人の部下の後ろには、常に部門の全メンバーが控えているのです。

『上司のルール』より転載)

嶋津良智 ■リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。